

社員が一つになって取り組む

# 「健幸づくり経営の3つの原則」基礎講座

## WORKSHEET 第四章



## 第四章原則3 社員が一つになる3つの方法

### ① 目的とは

#### 第四章①「目的とは」のポイント

それは、会社として、健幸づくり経営に取り組む「目的」です。

何のためにやるのか？企業の理念にそった目的を社員全員が共有しなければいけません。

なぜなら、健幸づくり経営の取り組みで数値目標を立てても、なぜ、目標を達成するのか？

社員には理解できないからです。

わかりやすく言うと、「喫煙者0%」という数値目標があっても、すでに喫煙者でない社員にとっては、

目標の意味がわからないわけです。

でも、喫煙0%を達成することで、「受動喫煙のない働きやすい環境をつくる」という目的があれば、

目標達成に向けて、喫煙者を応援しようという気持ちになります。

数値目標は、健幸づくり経営の取り組みで大切ですが、「社員が一つになって取り組む健幸づくり」を進めるためには、

何のために取り組むのか？目的を共有していきましょう。

## 第四章原則3 社員が一つになる3つの方法

### ① 目的とは

会社の企業理念は何ですか？理念を書き出してください。

\*企業理念とは、企業が地域社会にとってどんな存在となるのか？根っことなる考えです。使命や価値観とも言えます。

健幸づくり経営の目的は何ですか？目的を書き出してください。

## 第四章原則3 社員が一つになる3つの方法

### ② 信頼とは

#### 第四章② 「信頼とは」のポイント

あなたが、相手のことを信頼するには、相手のことを知る必要があります。

相手の趣味や年齢、好きなこと嫌いなこと、相手が話せることから聞き出して知る。

まずは、知ることから始めます。

そして、相手のことを知ったら、そのことについて知ってるよと伝えてください。

すると、相手は「私のことを知っているんだ」と知ります。

ここで重要なのは、相手のことを知ったら、必ず「私は、あなたのことを知っていますよ」と伝えることです。

このやり取りの積み重ねが、コミュニケーションです。そして、お互いに尊重することで信頼関係が生まれてきます。

10分話して信頼関係は生まれません。「千里の道も一歩から」一歩ずつ進んでいきましょう。

## 実践ワーク

### 相手のことを知る「子どもの頃のコミュニケーションについて」

子どもの頃、友達や学校の同級生、近所の子どもとどうやって遊んでましたか？

例えば、みんな集まって野球していた、テレビゲーム、外で遊ぶ

下記の空欄に書き出してみましょう。思い出せない人は、遊びの例を見て思い出してみましょう。

## 遊びの例

子どもの頃、友達や学校の同級生、近所の子もとどうやって遊んでましたか？

思い出せない人は、下記を参考にしてみましょう。

- A. スポーツ（野球やサッカーなど）
- B. 鬼ごっこ・かくれんぼ
- C. テレビゲーム
- D. 田んぼ飛び
- E. 魚釣り・虫取り
- F. ローラースケート
- G. 一輪車
- H. ホッピング
- I. ゴム跳び
- J. ドッチボール
- K. キックベース
- L. カードゲーム
- M. けんけんぱ
- N. 泥だんご遊び
- O. スーパーヨーヨー
- P. 缶けり
- Q. あやとり
- R. フルーツバスケット
- S. ハンカチ落とし
- T. おしくらまんじゅう
- U. シャボン玉
- V. めんこ

## 実践ワーク

### 相手のことを知る「子どもの頃のコミュニケーションについて」

子どもの頃、友達や学校の同級生、近所の子どもとどうやって遊んでいたのかを書き出したら社員同士で発表しましょう。

話を聞いた社員の名前（）

どんな遊びをしていたのかを下記空欄に書き出しましょう。

## 第四章原則3 社員が一つになる3つの方法

### ③ 自立とは

#### 第四章③ 「自立とは」のポイント

社員同士の信頼関係もあり、目的が共有できても、「やらされる健康づくり」では、続きません。

社員一人一人が、なぜ健康づくりに取り組むのか？理解して進まなければ、会社が決めたことに従うだけです。

この時に大事になるのが、「**健幸**」という考えです。

個人が望む健康な生き方や、暮らし方をイメージできていれば、勝手に健康づくりに

取り組むのではないのでしょうか？社員一人一人が、健幸づくりの考えを持つことが大切です。

これを、**健幸づくりの自立**と考えています。また、一人一人、健幸づくりの進め方は違います。

目的があり、お互いに信頼関係があれば、それぞれのペースで進んでいくことはできます。

個人が自立せず、やらされているようでは、必ず**やる気のある人間**と**やる気のない人間**に分かれていきます。

その結果、社員がバラバラな様態になり、何も進まないでしょう。